

第74回 河川レンジャー制度運営委員会 議事要旨

開催日：令和7年2月26日（水）14:30～17:00

実施場所：対面＋オンライン（ウォーターステーション琵琶1階会議室）

出席者：制度運営委員会委員：中谷、北井、平山、佐々木、若公

琵琶湖河川レンジャー：根木山、水上、野村、末吉

事務局：琵琶湖河川事務所；田中、長谷川、粕渕

流域連携支援室；中西、松岡、井上、成宮

（敬称略）

1. 議事

- （1）報告
 - 1) 河川レンジャー活動支援室からの報告
 - 2) 河川レンジャー年間活動報告
- （2）非公開審議（河川レンジャー審査）
- （3）審議 河川レンジャー年間活動計画
- （4）その他 傍聴者からのご意見

2. 結果 [凡例：○ 委員、□ 河川レンジャー、△ 事務局、☆ 傍聴者]

（1）報告

1) 河川レンジャー活動支援室からの報告

事務局より前回委員会以降の動き等について以下の報告を行った。

- 1. 令和6年度の活動支援室の主なスケジュール
- 2. 河川レンジャーの募集状況
- 3. 河川レンジャートライアルの募集状況と在籍者
- 4. 河川レンジャーの活動サポートボランティアの取り組み
- 5. 河川レンジャー交流会の開催報告
- 6. 河川レンジャー活動における参加者の実費負担について
- 7. 琵琶湖河川レンジャーレポート vol.55 発行

2) 河川レンジャー年間活動報告

河川レンジャーより、今年度の年間活動について、活動を通して得られた成果および課題等を報告した。

報告に対する委員の意見・助言等は以下の通り。

【根木山河川レンジャー】

- MIZBE ステーションの基盤整備は琵琶湖河川事務所が担当、整備後に施設をどう利活用していくかは、野洲市役所が中心となって、実行委員会を組織して考えていこうとしている。河川レンジャーとして考えたいているのは心強い。今後、高等専門学校も開校され、多くの学生が集う場となる。水辺に近づく良いフィールドとなるように経験を反映いただきたい。
- 幼木伐採の取り組みも感謝している。サポートできることがあれば、河川管理者として行っていく。
- 下流部と中流部に比べて上流部は違う年齢層や属性の方が多く場合も想定され、これまでとは違う活動や問題が出てくるかもしれない。
- 中流部と上流部の取り組みは、まだ活動を開始したところのため、何が起こるのか分からないという意味で、“課題が見えていないのが課題”と思っている。下流部でのこれまでの経験を生かして、少しずつ進めていきたい。

【水上河川レンジャー】

- 活動時のヒアリングについて聞き方や尋ねる主目的や意図を変えるなど工夫をすると、違うお話が伺えるかもしれない。
- 行政が把握したい住民の声や思いは、要望だけではないのではないか。“こうあってほしい”であれば、誰かにしてもらっただけではなく、“自分たちが関われば何か変わるかもしれない”ということも含まれていると思われる。
要望ばかりを受けるのは大変で、その間に入るのは河川レンジャーの仕事ではない。
- 河川レンジャーが住民から意見を伺って、行政がどのように反映したのか、結果が出ないと“聞いただけ”になり、信頼関係が崩れることもある。行政の立場からすれば、いろいろな意見が聞けるのは良いことではあるが、少し考えながら進めていきたい。

【野村河川レンジャー】

- まちめぐりのワークショップの講師を地域の方の協力を得てお願いしたということだが、どのような方がどのような話題でお話いただいたのか教えてほしい。
 - ⇒□ 瀬田町漁協の方に講師について相談したところ、西光寺さんや雲住寺さんの門徒の方がいらっしゃり、繋いでくださった。昔の盆踊りのお話を実際に踊ってくださったりしてくださった。
 - ⇒○ 今後もこのような関係を生かしていかなないともったいない。データベース的に収めて繋いでいけるようになれば良い。
 - ⇒○ そのような貴重なリソースの方々については、琵琶湖河川事務所としても認識しておきたい。加えて、今年は南郷洗堰が完成して 150 年という節目の年になる。昔の写真パネル展のような催しやいろいろな広報は取り組みたいと思っている。コラボレーションできることがないか、別途相談させていただきたい。

(2) 非公開審議（河川レンジャー審査）

今年度で任期満了となる現役河川レンジャー3名から、活動の継続を希望する応募様式が提出されたため、審査が執り行われた。その結果3名共に任命が決議された。

(3) 審議 河川レンジャー年間活動計画について

河川レンジャーの年間活動計画が提案され、承認された。
計画に対する委員の意見・助言等は以下の通り。

【末吉河川レンジャー】

- 計画の中で一番重要なメインとなる取り組みは。
 - ⇒□ 自身は、瀬田川沿川の地域の方々となつなかりがなく、ゼロからのスタートになるため、地域のイベント等への参加や自身のイベントからつながりを増やして行くことがメインと考えている。
 - ⇒○ 地域とのつながりを増やして行くことがメインの活動にはなり得ないと思う。地域のイベント等へ参加するなどは、主たる目的のための情報収集かと思われる。
- 地域とのつながりを目的に参加していく地域のイベント等について、上半期に参加を考えているものがあれば、具体的に教えてほしい。また、活動「瀬田川の魅力をデジタルマップ」「SNSで瀬田川の魅力を発信する」についても運用の考え方などを補足してほしい。
 - ⇒□ 地域のイベント等への参加については、ウォーターステーション琵琶で活動されている方々となつがっていきたいという思いがあり、みなさんの例会への参加、また瀬田川流域で行われる地域のお祭りへもと思っている。また、滋賀大学で4月から琵琶湖と河川環境に関する一般公開の講座があり、参加して学ぶと共に他の学生や企業の方々ともつながっていったらと思っている。
 - ⇒□ 活動「SNSで瀬田川の魅力を発信する」は、Googleマップとインスタグラムを活用したものになる。自身で取材した瀬田川のポイント記事を写真と共にGoogleマップにマッピングしていく。歴史や自然など、テーマをある程度分けていったらと思っている。インスタグラムは自身の活動内容を写真や動画で発信していきたいと思っている。

- 活動「地域住民や企業とつながり意見を聞き出す」「瀬田川の魅力をデジタルマップ」辺りがコアになるかなと思った。活動「地域住民や企業とつながり意見を聞き出す」（AIを活用した瀬田川の勉強会）は、ご自身が“地域とどのようにしたいのか”を少し説明しながら取り組まれると良い。得意なデジタルの分野を活かすなど。それがないと少し難しいと思う。
- 現在は、ご自身が地域との接点や情報量を増やしていく時期なのだと理解した。一方で、琵琶湖河川事務所に対しては、どのような情報収集をしたり、接点を持てたいと思われているか。
 - ⇒□ 河川に関することを伺いたい。ダムや放流や琵琶湖の水位、河川管理をしている中で地域に対してどのようなことを思われているのか。例えば、活動「地域住民や企業とつながり意見を聞き出す」（AIを活用した瀬田川の勉強会）に参加いただくと、地域の方と一緒に話や声を聞いていただけるのではと思う。
 - ⇒○ 一定の地域の情報量が増え、地域の思い（声）を琵琶湖河川事務所に伝える際、所内にはいろいろな課があり、さまざまな職務、課題もお持ちである。河川レンジャーとして、どちらに届けたら一番聞いていただきやすいのかを事務所への興味・接点を持って、把握されると良いと思う。
- 活動「地域住民や企業とつながり意見を聞き出す」（AIを活用した瀬田川の勉強会）について、教えていただきたい。また、前回の委員会でもお話を聞いて思っているのがアート系の取り組み。一つの切り口として面白いと思っている。
 - ⇒□ AIを活用した瀬田川の勉強会に関しては、AIへ質問の仕方を変えて検索すると掘り下げた情報や魅力の発見につながるというのがある。そのようなところを活かして瀬田川の魅力発見につなげていきたい。
アート系に関しては、清掃活動の後にペットボトルキャップのアクセサリ作りなどを考えていたが、瀬田川にはごみが少ないことがわかり、難しいと判断した。長期的な視点で考えていけたらと考えている。
- これまでの委員からのコメントを踏まえて、活動支援室や琵琶湖河川事務所とコミュニケーションをとりながら、知識を深めて取り組んでいただきたい。

【根木山河川レンジャー】

- 直轄区間を満遍なく取り組まれていることがよく分かった。今年度も活動が充実していくのを拝見していきたい。
- MIZBEステーションの実行委員会がどのような組織なのか、教えてほしい。
 - ⇒□ MIZBEステーションは、令和10年度に供用開始を予定されている。利活用については、野洲市役所が担当されており、次年度4月以降、かわまちづくり協議会の中に実行委員会を組織し、行政だけでなく住民も参加して進めていくということが決定している。3月にその進捗を伺えることになっている。
 - ⇒○ 根木山河川レンジャーにも動きをフォローしていただき、情報を共有していくので試行的に川に近づくアクティビティーをお願いしたい。
- 説明されていた「住民にとって非常に住民の生活の質を高める貴重な地域資源」であると捉えていただいていることが心強く、引き続きそういう視点で活動いただきたい。

【水上河川レンジャー】

- 住民と河川行政をつなぐというところで、何が一番の課題か。また、自身が当初関わっていたヨシ帯のモニタリング調査について、今後、この活動はどのような発展系が見えるか。
 - ⇒□ ヨシ帯のモニタリング調査については、佐々木委員、根木山河川レンジャー、私と引き継いで取り組んできた。現在は、いつまでも河川レンジャーではなく、バトンタッチできるような形で行政と地域とをつないできている。具体的には、地域の立命館守山中学校方々との信頼関係がある程度できたため、行政に主体的に取り組んでいただく形に移行している。ただ、行政は担当者の異動などもあり、全面的に移行は難しいため、1割から2割程度は関わっている。

- ⇒□ 課題について、当初は、“行政も河川レンジャーも住民と一緒に汗を掻きながらやりましょう”と考えていた。ところが、現実として働き方改革や行政の人員削減などもあり、“活動がある休日に来ていただけない状況”がある。そのため、今後は、“行政でなければできないところをやっていただく形”が良いのかなと思っている。例を言うと、河川清掃の際、ごみの処分を自治体へ依頼・調整をしないといけませんが、そのような調整は行政間同士で行っていただくという形を考えている。
- ⇒○ 同じ取り組みを継続していくと「この取り組み何のために進めていたのか」との話になりがちで側面があり、継続していくだけではなく、“いい意味で発展していけるようなものをどのように実装していくのか”ということも課題ではないかと思っていた。
- 河川レンジャーが行政と地域をつなぐということで、継続して取り組んでいただいていることだけでも河川管理者としてありがたいと思っている。担当課以外にフィールドで河川レンジャーが活動しているということを所内全体としてブレイアップする機会が少ないのかもしれない。意識をして機会を設けていきたいと思う。引き続きお願いしたい。

【野村河川レンジャー】

- 活動「瀬田川たんけんたい」は、基本的に年度ごとの募集のため、0Bや0Gになっている子どもたちに何かフォローしているのか教えてほしい。
- ⇒□ 「来年も参加したい」と言ってくれている子をスタッフとしてスカウトしている。次年度は募集人数も進め方も変えるため、スタッフの枠はその子どもがいるファミリーに空けている。活動発表をする機会も考えており、その際には発表者になると言ってくれている。
- ⇒○ ステップを踏んでサポートをしてくださるような力強さもあると良いと思う。育っていくというのが毎年蓄積されていくのではと思う。
- 小学生のファミリーとは別に、活動をサポートいただける大人や学生のスタッフは、求められているとの理解でよい。
- ⇒□ 求めている。訪問したつながりで、2月初旬に環境教育学会という研究会に声を掛けていただき、活動の紹介をさせていただいた。結果、遠方の方含めていろいろな方とつながりができた。一緒に訪問いただいたことで感謝している。
- ⇒○ この活動を教育学部の学生や先生方がアシスタントとして経験するということに、河川管理者としては価値があると思っている。必要であれば、引き続き協力していく。
- 計画の工程に「行政との共有」とあるが、具体的にどのようなことを予定されているのか教えてほしい。
- ⇒□ 例えば、活動「瀬田川たんけんたい」では水辺の安全講座や雨たいけん室の体験、鹿跳溪谷の石調べの際には、可能であれば天ヶ瀬ダムとの関わりや地形の変化など、自身が情報を教えてもらい話してもよいが、河川管理者である方から直接お話しただけだとと思っている。参加者と行政とのコミュニケーションの場を設けて、お互いの思いを知り合うことをまずは進めていけれなく考えている。
- 河川レンジャーはつなぎ役として、うまくつながるがどうかということが大事だと思う。琵琶湖河川事務所にもいろいろな仕事があり、担当者がいるので、機会があれば、どのような仕事をしているのかという観点で情報収集していくとつなぎやすくなる。

以上